

平成28年度 五泉市算数部 活動報告

部長 伊藤 恭子

1 活動のねらい

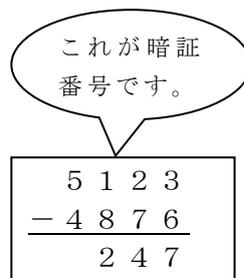
授業研究や情報交換を通して、授業力の向上を図る。

2 研究の概要

第1回研修	4月13日(水)	年間活動計画、役割分担
第2回研修	6月22日(水)	指導案事前検討会
第3回研修	9月26日(月)	授業研究
第4回研修	10月26日(水)	講演会

3 研究の実際

- ① 第3回研修 9月26日(月) 授業研究
授業者 黒井 恵理子教諭(村松小学校)
単元名 『大きい数』(3年生)
指導者 五泉市教育委員会学校教育課 指導主事 金 洋輔 様



〈授業より〉

答えが小さくなるような4桁の引き算の問題を考えることを通して、4桁の数の相対的大きさの理解を深めることをねらいとした。

「答えが一番小さくなる問題が宝のかぎを開く暗しょう番号」だということで、児童は意欲的に問題作りに取り組んだ。教師が押さえたかった「引かれる数と引く数の差が小さいほど答えが小さくなる」ことになかなか気付かなかったが、繰り下げて千の位を0にすることは見つけ出すことができた。引かれる数を固定したり、数直線を使ったりして考えさせる工夫があってもよかった。

〈指導者より〉

- 子どものつぶやき(本時では「繰り下がりを使う」)を取り上げ、繰り下がりを使うと答えが小さくなったことをみんなで確かめ、「繰り下がりを使って答えが一番小さくするにはどうすればいいか」という学習課題を設定することができた。
- ペアやグループ活動では、教師の出場(数学的な考え方を引き出す問い返し)が重要である。
- 児童は話しながら分かっていく。対話とは、返答の連鎖であるから、自分の考えを話すだけでなく他者の声に耳を傾けて自分なりに返答していくことが不可欠である。
- 大事なことはすべて子どもが教えてくれる。

- ② 第4回研修 10月26日(水)
講師 新潟大学教育学部附属新潟小学校 教頭 平山 誠 様
講話 子どもに力を付ける算数の授業づくり

- 現在求められる教師像とは、「成果を上げる先生」。だから、授業研究を通して、反省的实践を積むことが必要。
- 子どもに力をつける教師になるためにすること
 - ①単元の中で子どもがどこにつまずくのか予想し、どう乗り越えさせるのか考える。
 - ②シンプルに、見通しがもて、発見・納得ができる課題を作る。
 - ③基礎基本の定着と振り返り、毎日続けることが大切。
- 授業作りのキーワードは、ワクワク・ドキドキ・おもしろい。

4 成果と課題

講師・指導者の先生方からおもしろい算数授業をつくるための観点やコツ、教師の出場の重要性、子ども達が互いの意見を聴くことの大切さを教えていただいたことが大きな成果であった。授業研究では、本時の課題・ペア活動や振り返りのさせ方について意見を出し合い交流することができた。ここで得た情報や知識を実際に活用していきたい。